

会報 No. 17

2020年12月8日発行

発行・編集 日本学習社会学会事務局

Japanese Association for the Study of Learning Society

日本学習社会学会

事務局 〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40

日本大学文理学部教育学科気付

TEL:03-5317-9370(事務局長田中謙研究室直通)

FAX:03-5317-9425(日本大学文理学部教育学科)

学会 HP: <http://learning-society.net/>

会報第17号をお届けします。本号では第17回大会の課題研究の報告、理事会および総会の報告、年報第17号の自由研究論文の募集などについてお知らせいたします。会員の皆様には、引き続き本学会の発展のためにご協力くださいますようお願い申し上げます。

第17回大会を終えて 大会事務局 田中 謙 (日本大学)

日本学習社会学会第17回大会は、2020(令和2)年9月12日(土)、13日(日)に日本学習社会学会理事会・常葉大学第17回大会実行委員会共催において開催され、特段の事故・トラブルもなく、無事に終了できましたことをご報告いたします。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、常葉大学第17回大会実行委員会の皆様には、開催ぎりぎりまで集会型での開催をご検討いただきました。しかし、2020年度の集会型での開催は困難との理事会判断から、日本学習社会学会理事会・常葉大学第17回大会実行委員会共催の形でオンライン大会へと変更が行われました。本学会でも初めての試みで、手探り状態ではありましたが、理事会・自由研究発表・課題研究I・IIの企画で、両日併せ述べ50名の会員の方に参加していただきました。

初日の自由研究発表は、オンライン発表3件、紙面発表13件が報告されました。オンライン発表3件の会員の皆様には、その体験談を会報に寄せていただいております。ぜひそちらもご確認いただきたく存じます。課題研究I「市民性教育の理論と実践に関する比較研究—日米英の動向について—」は、国際交流委員会の委員でもある若槻

健会員、古田雄一会員、大野順子会員にそれぞれ日米英の動向をご報告いただき、有意義な報告・討論がなされました。課題研究II「生涯学習の基盤を形成する学校図書館像を考える—2030年を見据えた教育課程との関わりから—」は、大会実行委員会企画として学校図書館の果たす役割や示唆に富む実践の報告がなされ、参加者からの活発な質疑も行われました。自由研究発表および、課題研究の企画者・司会者・報告者の皆様には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

また本大会では初めてオンライン上での総会も開催されました。会員の皆様からは、現状の学会での『学習社会研究』等の活動趣旨にご賛同いただき、更なる発展に資する意見を寄せていただく等、多くの意見をいただくことができました。その上で審議事項は全てご承認いただきました。制約の多い実施方法ではありましたが、ご意見をいただき、ご承認いただきました会員の皆様、本当にありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の一刻も早い終息を願うとともに、次年度はぜひ集会型で学習社会の更なる発展に向け、多くの議論ができる大会となりますよう、祈念しております。

CONTENTS

第17回大会を終えて	1
課題研究報告	2
自由研究発表(オンライン)体験談	6
理事会報告	8
第17回総会報告	14
お知らせ	15
年報第16号の自由投稿論文の募集	17

課題研究 I 報告

市民性教育の理論と実践に関する比較研究—日米英の動向について—

【司会】

金山 光一（早稲田大学（非））

【報告者】

報告 1：若槻 健（関西大学）

「日本の市民性教育は若者をどのように包摂しようとしているのか」

報告 2：古田雄一（大阪国際大学短期大学部）

「アメリカの市民性教育の動向と事例から

—イリノイ州シカゴ学区を手掛かりに一—

報告 3：大野順子（摂南大学）

「イギリスにおけるシティズンシップ教育の変遷」

金山光一会員による司会で、第 1 セッションを報告、第 2 セッションを意見交換の場とした。

1 番目は、若槻健会員（関西大学）から、「日本の市民性教育は若者をどのように包摂しようとしているのか」というテーマで報告がなされた。若槻会員はまず、市民性教育について「社会化」「主体化」「資格化」の 3 つの観点を提示した。日本の現状に即してみると、「確かな学力」とキャリア教育が重視されており、市民性教育が重視されているとは言えない。日本の学校は、多文化に弱く、「主体化」よりも「社会化」が強い。また、恵まれた家庭の若者や学力の高い若者には「主体化」が促されるが、そうでない若者には従順さ、社会貢献が求められるという市民性の格差を指摘した。また、市民性を測定しその多寡によって評価する「資格化」は、社会貢献をしない（できない）人を、二級市民と見做す危険性があると論じられた。

2 番目は、古田雄一会員（大阪国際大学短期大学部）から、「アメリカの市民性教育の動向と事例から—イリノイ州シカゴ学区を手掛かりに一」というテーマで報告がなされた。

アメリカの公教育に関する権限は州政府にあり、その多くはさらに学区に委譲しているため、市民性教育の導入に関しても、全米での統一的な政策的枠組みは存在しない、2003 年公表された『学校

の市民的使命』という報告書がきっかけとなり、市民性教育を通じて育みたい「有能で責任をもった市民」像が明示された。そうした中、イリノイ州シカゴ学区では、独自の公民科カリキュラムを導入した実践を行なっている。日本への示唆としては、社会的低位に置かれた子どもや若者の置かれた背景を丁寧に理解し、市民性教育の実践につなげていく必要性等が提起された。

3 番目は、大野順子会員（摂南大学）から、「イギリスにおけるシティズンシップ教育の変遷」というテーマで報告がなされた。大野会員は、「シティズンシップ教育」必修化に至った経緯、教科「シティズンシップ」の軌跡：カリキュラム内容の変遷と「一般中等教育資格」（GCSE）試験の関係、2020 年 1 月の EU 離脱後のシティズンシップ教育の展望について言及した。画期となった 1988 年の「教育改革法」では、ナショナルカリキュラムの中に「市民（権）に関する教育」が位置づけられた。2000 年には、シティズンシップ教育が必修化された。その背景には、青少年の政治的問題に対する無関心、政治的疎外感、グローバルな問題への無関心があったとされる。今後の課題として、EU 離脱により「EU 市民」という概念が消失して、「市民」概念は再検討を余儀なくされてくること、これまで以上に「政治教育」に偏向して

いく方向性等が指摘された。

第2セッションでは、ブレイクアウトセッションにより参加者の意見交換が促進された。

報告：赤尾勝己（関西大学）

課題研究Ⅱ報告

生涯学習の基盤を形成する学校図書館像を考える

—2030年を見据えた教育課程との関わりから—

【司会・コーディネーター】

鈴木 守（常葉大学）

【報告者】

報告1：笠井 尚（名城大学）

「学校と地域に資する学校図書館の施設整備—学習環境の設計をきっかけとした運営改善—」

報告2：河原崎 全（御前崎市教育委員会）

「自主的自発的な学習活動及び読書活動の推進—学校図書館と市立図書館との連携—」

報告3：磯部真代（浜松市立芳川北小学校）

「『ブックカフェ』から社会に開かれた学びへ—浜松市立芳川北小学校「つながる学校図書館プロジェクト」から—」

本課題研究は、「生涯学習の基盤を形成する学校図書館像を考える—2030年を見据えた教育課程との関わりから—」と題し、学校教育を支援し生涯学習の基盤を形成する役割を担ってきた学校図書館が、地域の学習を充実させる役割を期待されている現状を踏まえ、今後、学校教育や地域においてどのような役割を果たしていくべきか、事例を踏まえて明らかにすることを目的として行われた。

報告1では、笠井尚会員（名城大学）より、「学校と地域に資する学校図書館の施設整備—学習環境の設計をきっかけとした運営改善—」と題し、学校図書館の設計をどのようにしていくか、ユーザーの意見をどのように生かすか、オープンスペースを活用した低学年図書館等の実践を通じた報告があった。また、学校図書館に関する子どもたちのニーズを探るWSと、子どもたちの意見が紹介され、子どもが期待するような学校図書館を検討していると報告された。さらに、高学年図書館と地域図書館を複合化した実践から、複合化をめぐる理念と現実、図書館を地域と共有することの難しさが指摘された。

報告2では、河原崎全教育長（御前崎市教育委員会）より、「自主的自発的な学習活動及び読書活動の推進—学校図書館と市立図書館との連携—」と題し、御前崎市の概要と教育（御前崎の人づくり「スクール御前崎」、御前

崎型コミュニティスクールとスクラムスクールプラン）、子どもたちの読書環境（市立図書館のサービスや園・学校等への支援など）、読書推進の土台づくり（教育施策として読書推進に力を入れていることの明確化、第二次御前崎市子ども読書活動推進計画の策定と読書推進活動の展開）、市立浜岡中学校の新校舎とメディアセンター（学校図書館）について報告された。

報告3では、磯部真代会員（浜松市立芳川北小学校）より、『『ブックカフェ』から社会に開かれた学びへ—浜松市立芳川北小学校『つながる学校図書館プロジェクト』から—』と題し、「つながる学校図書館」が構想され、開かれた学びの場の実現を目指していること、同プロジェクトを構成する「ブックカフェ」、「わくわくライブラリー」、「動く図書館」等の実践が報告された。「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、「チーム学校」としての連携の輪を広げ、学校図書館の可能性を追求したいと述べた。

また、報告者間で、学校図書館にユーザーの意見をどのように生かすのか、学校図書館の運営に「人」を活かすためにはどうするか、学校の教育計画や経営計画に学校図書館を位置付けることの重要性などが議論された。

ZOOMから参加いただいた会員の方からは、岐阜県や愛知県で盛んなオープンスクールとの関連、ブックカフェ

エの名称や住民との関わりについて、図書館はどのような教育のコンセプトに基づいて位置付けられているのか、インターネットと図書館との関係、クリティカルシンキングについて国語の先生との関わりをどう考えているのか等についてご質問をいただいた。

最後に、報告者からは、子どもが盛り上がると大人が楽しく学校をつくることができ、子どもも大人も楽しめる図書館ができるのではないかと、学校図書館は学校教育の中心であるが、社会教育、公共図書館の連携や地域の協力は欠かせないというお話をいただいた。

新型コロナウイルスの影響により、常葉大学の会場で発表する予定を、ZOOMでの発表に変更させていただいたが、報告者の先生方からは素晴らしい発表をしていただいた。今回の研究成果を生かしながら、今後も、本学会において学校図書館に関する研究成果の発表が行われることを期待したい。

報告：鈴木 守（常葉大学）

自由研究発表(オンライン)体験談

今大会は本学会で初めてオンラインでの自由研究発表を行ったため、参加いただいた会員の方に体験談を寄せていただきました。

1. 手塚貴子会員 (金沢星稜大学女子短期大学部)

この度、学会初のオンライン大会による自由研究発表を、トップバッターで担当させていただきました。初めての試みということで、当日まで不安に駆られる日々を過ごして参りました。発表方法について、当日その場で共有画面を使って発表するか、音声つき PPT を事前に用意するか、最後まで悩みましたが、後ろにずれ込んでご迷惑をおかけしてしまうリスクを極力回避するため、音声つき PPT で発表させていただくことに致しました。これまでの学会発表に比べ、発表のパフォーマンスが取れないことや、質問をつのる際に聴いてくださった先生方の表情を読み取ることができない点が残念な点でした。

しかし、オンライン発表による魅力もいくつかありました。これまで、自由研究発表は幾つものブースに分かれていたため、発表を聴いて下さる先生方の人数に限られていましたが、オンライン発表のおかげで数多くの先生方やこれまでに直接ご縁の無い先生方にも発表を聴いていただく絶好の機会を得ました。そこで、質問やご意見をいただけたことが、私の今後の研究活動への大きな支えとなりました。発表後、早速地域題材(地場野菜)に関するアンケートを、北海道函館市及び石川県金沢市で実施致しております。町内会や公民館館長のご協力により、地域住民、大学生及び短大生、農業高校生と幅広くアンケート回答を得ることができました。また、金沢市内の複数の公民館で講座実施の相談を始めております。コロナ禍により、密接ではない新たな世代間交流が求められることとなりますが、異世代交流の種として、あるいは SDG s の目標への取り組みを地域で考える機会として、生活文化の学びを生かすことができたらと今後も研究活動に邁進する所存です。

最後になりましたが、貴重なオンライン学会発表の機会をいただき、誠に有難うございました。

2. 磯部真代会員 (静岡県浜松市立芳川北小学校)

この度は、自由研究発表にあたり、たくさんの先生方にお力添えをいただき、オンラインという形で発表をさせていただくことができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

私は、昨年度、常葉大学教職大学院で学ばせていただきました。教育資源である学校図書館の機能を見直し、多機能化による開かれた学びの場の実現を目指して、「つながる学校図書館」をテーマに取り組みました。たくさんの先生方から御示唆をいただき、この研究に取り組むことができました。

学校図書館は、多くの人々が関わります。浜松市立芳川北小学校では、20年近く読み聞かせや貸出などのボランティア活動が継続されてきました。この素晴らしい伝統を人々がつながることでより豊かに子供たちに還元できると考えました。「学校は大人になるための準備期間。つながりの中で子供たちを育み、子供たちが人生は楽しく、世の中には素敵なお大人がたくさんいて、世界が広がっていることを学ぶ場。」とビジョンを共有し、様々な角度から一人ひとりのよさを引き出しながら、子供たちが笑顔になる取組をと考えて実践をしました。養護教諭やソーシャルワーカーの話によると、よりよく生きる素敵なお大人に出会うことは、子供たちのその後の人生にも影響するといえます。本や人、素敵なお出合いが、子供たちの人生をより豊かなものにするのを願い、チームで子供たちの素敵なお未来をと継続して取組んでいます。

研究に当たっては、本当にたくさんの方々から御協力を賜りました。常葉大学の素晴らしい先生方との出会いに背中を押していただき、発表に挑戦させていただくことができました。今回、オンラインという形式での発表でしたが、オンラインは、様々な可能性があることも感じました。研究をより多くの方々にお伝えする機会とも捉えました。オンラインを通して、研究が羽ばたいていくことで、いつか誰かの役に立てたらと感じました。

いろんな人々のお力添えをいただき、取り組ませていただいた研究。この研究には、たくさんのヒーローがいることをお伝えし、これからも続くチームの輪を大切に、

子供たちの素敵な未来を協働創造していきたいと考えます。ありがとうございました。

理事会報告

2019年度 第3回理事会

日時 2019年12月21日(土) 15:30～17:30
会場 日本大学文理学部(本館5階 E/M T L)
出席者 新井 郁男・堀井 啓幸・佐藤 千津・佐藤 晴雄・
富士原 雅弘・田中 達也・玉井 康之・入澤 充・
岩崎正吾・貝ノ瀬 滋・金塚 基・北野 秋男・栗
原 幸正・佐久間 邦友・志々田 まなみ・柴田 彩
千子・田中謙・前田 耕司・上原 直人・金山 光
一・赤尾 勝己・若槻 健・吉田 尚史・森岡 修一
(役職・地区順、敬称略) 計24名
欠席者 梶 輝行・若園 雄志郎・益川 浩一・柏木 智子・
井出 弘人・望月 國男・亀井 浩明(役職・地区
順、敬称略) 計6名
陪席者 窪和広・本間夏海(事務局幹事)・松岡侑介(事
務局幹事)(五十音順、敬称略) 計3名

1. 会長挨拶(新井郁男会長)

新井郁男会長より、開会の挨拶。

2. 2019年度第3回理事会議事録の確認(富士原雅弘前事務局長・田中謙事務局長)(資料1)

田中謙事務局長より、資料1が確認され、原案のとおり承認された。

3. 2019年度第16回大会総会議事録の確認(富士原雅弘前事務局長・田中謙事務局長)(資料2)

田中謙事務局長より、資料2が確認され、原案のとおり承認された。

4. 報告事項

(1) 常任理事の委嘱と理事会体制について(新井郁男会長)(資料3)

新井郁男会長より、資料3に基づき常任理事が委嘱され、理事会体制が承認された。

(2) 事務局報告(一般会務報告)(富士原雅弘前事務局長・田中謙事務局長)(資料4)

①学会員の状況(2019年12月21日現在)一般会員229名、学生会員28名、合計257名。

②2019年度理事会等開催状況についての報告。

③寄贈図書3冊。

(3) 第16回大会開催報告について(北野秋男理事・第16回大会実行委員長、佐久間邦友理事・大会実行委員会事務

局長)(資料5)

北野秋男大会実行委員長より、協力に対する謝辞が述べられ、佐久間邦友大会実行委員会事務局長より、こども落語の状況やその後のテレビ放映などが紹介された。

(4) その他

田中謙事務局長より、会員からの問い合わせに対して次のとおり回答したことが報告された。会員が海外に移住した際、会員資格を有していれば論文を投稿できる。年報は締切の期日までに届いていれば他の投稿論文と同様に扱うこととなった。

5. 審議事項

(1) 各種委員会の構成と活動計画について

1) 年報編集委員会(入澤充委員長)(資料6)

入澤充委員長より、報告がなされ、年報編集委員会の体制が承認された。岩崎正吾前委員長より、年報編集委員会の開催回数についてご指摘があり、4回の開催が確認された。

2) 研究推進委員会(志々田まなみ委員長)(資料7)

志々田まなみ委員長より、資料7に基づいて報告がなされた。堀井啓幸副会長より、複数の柱を立てて研究を推進されてはどうか、とのご提案があり、今後の大会準備と並行して継続して協議していくこととなった。

3) 国際交流委員会(赤尾勝己委員長)(資料8)

赤尾勝己委員長より、資料の8に基づいて報告がなされた。

(2) 事務局幹事の委嘱について(新井郁男会長)(資料3)

新井郁男会長より、事務局幹事が紹介され、承認された。

(3) 予算支出方法について(新井郁男会長)(資料なし)

新井郁男会長より、従来通り行うとの説明がなされ、承認された。

(4) 第17回大会開催準備状況について(堀井啓幸大会実行委員長)(資料なし)

堀井啓幸大会実行委員長より、常葉大学において、9月の5日6日の開催を予定していたが、行事変更により、その前後の週、8月29日30日か、9月12日13日になる旨が伝えられた。シンポジウムについては、「多文化共生社会」や「学校図書館の現状と課題」をテーマとする意見が出ていることが報告された。

(5) 第 18 回大会の会場校について（富士原雅弘前事務局長・田中謙事務局長）（資料なし）

田中謙事務局長より、次回の理事会で候補を挙げる予定とのことが説明され、承認された。

(6) 入会申込者について（富士原雅弘前事務局長・田中謙事務局長）（資料 9）

入会申込者の 4 名が承認された。

(7) 退会者について（富士原雅弘前事務局長・田中謙事務局長）（資料 9・回覧資料）

4 名が、退会希望の日付で退会することが承認された。

(8) 『学習社会研究』編集委員会について（新井郁男会長）（資料 10）

新井郁男会長より、2 年おきの刊行ということで次回は 2020 年度、2021 年 3 月に刊行予定の説明がなされた。刊行実施の可否は継続して審議事項とすることが承認された。そのためまずは編集委員会を立ち上げることとなり、委員長の選任が行われた。理事会で吉田尚史理事が推薦され、委員長委嘱が承認された。今後の計画や委員会編成等に関しては次回の理事会で吉田委員長より提案されることが確認された。

(9) 日本学術会議会員及び連携会員の候補者に関する情報提供について（資料 11）

田中謙事務局長より、従来通り会長からの情報提供という形をとることが提案され、承認された。

(10) 学会ゆうちょ銀行口座（00270-3-100822）管理について

事務局長に田中謙会員（日本大学）が就任したことにより、今後ゆうちょ銀行口座（00270-3-100822）管理については、会長より田中謙事務局長に委嘱することが確認された。

(11) 学会の所在に関して

学会および事務局の移転に伴ない、学会の所在が移転することが確認された。

（新）

〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40

日本大学文理学部教育学科

事務局長 田中 謙

TEL：03-5317-9370（事務局長田中謙研究室直通）

FAX：03-5317-9425（日本大学文理学部教育学科）

6. その他

【資料】

資料 1 2019 年度第 3 回理事会議事録（案）

資料 2 2019 年度第 16 回大会総会議事録（案）

資料 3 常任理事の委嘱と理事会体制について

資料 4 一般会務報告

資料 5 第 16 回大会開催報告

資料 6 年報編集委員会資料

資料 7 研究推進委員会理事会資料

資料 8 国際交流委員会理事会資料

資料 9 入退会者一覧

資料 10 『学習社会研究』編集規程

資料 11 日本学術会議会員及び連携会員の候補者に関する情報提供について

回覧資料 退会申込書

2020 年度 第 1 回理事会

日時 2020 年 4 月 13 日（月）～4 月 17 日（金）

会場 メール会議

出席者 新井 郁男・堀井 啓幸・佐藤 千津・佐藤 晴雄・富士原 雅弘・亀井 浩明・田中 達也・玉井 康之・入澤 充・岩崎正吾・貝ノ瀬 滋・梶 輝行・金塚 基・北野 秋男・栗原 幸正・佐久間 邦友・志々田 まなみ・柴田 彩千子・田中謙・前田 耕司・若園 雄志郎・上原 直人・金山 光一・益川 浩一・赤尾 勝己・柏木 智子・若槻 健・井出 弘人・吉田 尚史・望月 國男・森岡 修一（役職・地区順、敬称略） 計 30 名

欠席者

陪席者 窪和広・本間夏海・松岡侑介（事務局幹事）（五十音順、敬称略） 計 3 名

(1) 2020 年度研究大会について（堀井大会実行委員長・田中謙事務局長）

1) 研究大会日程について（堀井大会実行委員長）

堀井大会実行委員長より、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）等の状況を鑑みながら、大会日程を 9 月 12 日、13 日について大会校提案通りとする案が提示され、承認された。

2) 大会プログラム案について（堀井大会実行委員長）

堀井大会実行委員長より、大会プログラムを大会校提案通りとする案が提示され、承認された。

3) シンポジウム案、課題研究案について（堀井大会実行委員長）

堀井大会実行委員長より、シンポジウム案、課題研究案を大会校提案通りとする案が提示され、承認された。

2. その他

【資料】

- 資料1 臨時理事会次第
資料2 大会プログラム案
資料3 シンポジウム案・課題研究案

2020年度 第2回理事会

- 日時 2020年7月4日(土) 15:00～17:00
会場 web 会議(「Zoom」使用、事務局(日本大学文理学部))
出席者 新井 郁男・堀井 啓幸・佐藤 千津・佐藤 晴雄・富士原 雅弘・田中 達也・玉井 康之・入澤 充・梶 輝行・金塚 基・栗原 幸正・佐久間 邦友・志々田 まなみ・柴田 彩千子・田中 謙・前田 耕司・上原 直人・金山 光一・益川 浩一・赤尾 勝己・柏木 智子・若槻 健・井出 弘人・吉田 尚史・森岡 修一(役職・地区順、敬称略) 計25名
欠席者 亀井 浩明・岩崎 正吾・貝ノ瀬 滋・北野 秋男・若園 雄志郎・望月 國男(役職・地区順、敬称略) 計6名
陪席者 本間夏海・松岡侑介(事務局幹事)(五十音順、敬称略) 計2名

1. 会長挨拶(新井郁男会長)

新井郁男会長より、開会の挨拶がなされた。

2. 2020年度第4回理事会議事録の確認(田中謙事務局長)(資料02)

田中謙事務局長より、資料02が確認され、原案のとおり承認された。

3. 報告事項

(1) 事務局報告(一般会務報告)(田中謙事務局長)(資料03)

田中謙事務局長より、下記の状況が報告された。

- ①学会員の現況は一般会員215名、学生会員22名の合計237名であること。
②2019年度理事会等開催状況についての報告。
③寄贈図書が8冊であったこと。

(2) 各種委員会報告

①年報編集委員会(入澤充委員長)(資料04-1、04-2)

松岡編集委員会幹事より、資料04に基づき、編集作業について報告がなされた。

②研究推進委員会(志々田まなみ委員長)

志々田委員長より、2020年度の研究大会に向けた準備状況等報告がなされた。

③国際交流委員会(赤尾勝己委員長)

赤尾委員長より、2020年度の研究大会に向けた準備状況等報告がなされた。

4. 審議事項

(1)『学習社会研究』編集委員会および第4号について(新井郁男会長・吉田尚史委員長)(資料05)

吉田委員長より、編集委員会の体制について案が示され、体制が承認された。次回理事会で今後の編集方針等について審議が行われることとなった。

(2)2019年度決算案について(富士原顧問(前事務局長)・田中謙事務局長)(資料06)

富士原顧問・前事務局長より、資料06に基づき2019年度決算案が示され、承認された。

(3)2020年度活動計画案について(田中謙事務局長)(資料07)

田中謙事務局長より、資料07に基づき2020年度活動計画案が示され、承認された。

(4)2020年度予算案について(田中謙事務局長)(資料08)

田中謙事務局長より、資料08に基づき2020年度予算案が示され、承認された。

(5)第17回大会の開催準備について(堀井啓幸大会実行委員長)(資料09)

堀井啓幸大会実行委員長より、資料09に基づき説明がなされた。審議の結果、新型コロナウイルス感染症等による社会状況を鑑み、2020年度大会は日本学習社会学会理事会・常葉大学第17回大会実行委員会共催に変更の上、9月12日(土)、13日(日)に紙面およびweb会議システムを用いての開催に変更となった。大会内容等は新井会長に一任することとなった。

(6)入退会者について(田中謙事務局長)(資料10)

田中謙事務局長より、資料10に基づき、入会申し込み者9名の入会が承認された。

(7)第18回大会の会場校について(新井郁男会長)(資料なし)

新井会長より、第18回大会の会場校については継続して

審議していくことが説明され、承認された。

(8) 学会賞について(新井郁男会長)(資料なし)

新井会長より、学会賞について岩崎理事を中心に準備を進めていくことが説明され、承認された。

(9)『日本学習社会学会年報』バックナンバーについて(田中謙事務局長)(資料なし)

田中謙事務局長より、今後理事会で継続して取り扱いを検討していきたい旨が説明され、承認された。

(10)『学習社会研究』J-stage 登録等学事出版交渉について(田中謙事務局長)(資料なし)

田中謙事務局長より、今後理事会で継続して取り扱いを検討していきたい旨が説明され、承認された。

(11) 2020 年度第 2 回理事会開催日程について(新井郁男会長)

新井会長より、次回 2020 年 9 月 12 日 13:00 から開催したい旨説明がなされ、承認された。

(12) その他

田中謙事務局長より、会員からの退会年度問い合わせについて説明があり、事務局で対応していくことが承認された。

5. その他

【配付資料】

- 資料 01 2020 年度第 1 回理事会次第
- 資料 02 2019 年度第 4 回理事会議事録(案)
- 資料 03 一般会務報告
- 資料 04-1 日本学習社会学会年報編集委員会理事会資料
- 資料 04-2 年報編集委員会年間行事計画
- 資料 05 『学習社会研究』第 4 号編集委員会(案)
- 資料 06 2019 年度決算案
- 資料 07 2020 年度活動計画案
- 資料 08 2020 年度予算案
- 資料 09 日本学習社会学会第 17 回大会 自由研究発表申し込み状況
- 資料 10 入退会者一覧
- 参考資料 web 大会開催案
- 回覧資料 入会申込書、退会申込書(割愛)

2019 年度 第 3 回理事会

日 時 2020 年 9 月 12 日(土) 13:00~15:00

会 場 web 会議(「Zoom」使用、事務局(日本大学文理学部))

出席者 新井 郁男・堀井 啓幸・佐藤 千津・佐藤 晴雄・富士原 雅弘・田中 達也・玉井 康之・岩崎 正吾・梶 輝行・北野 秋男・栗原 幸正・佐久間 邦友・志々田 まなみ・柴田 彩千子・田中 謙・前田 耕司・若園 雄志郎・上原 直人・金山 光一・赤尾 勝己・柏木 智子・井出 弘人・吉田 尚史・森岡 修一(役職・地区順、敬称略) 計 24 名

欠席者 亀井 浩明・入澤 充・貝ノ瀬 滋・金塚 基・益川 浩一・若槻 健・望月 國男(役職・地区順、敬称略) 計 7 名

陪席者 白鳥 絢也(大会事務局長)・窪 和広・本間 夏海(事務局幹事)(五十音順、敬称略) 計 3 名

1. 会長挨拶(新井郁男会長)

新井会長より、開会の挨拶がなされ、第 17 回大会が日本学習社会学会理事会・常葉大学第 17 回大会実行委員会の共催で行われることの説明が行われた。

2. 2020 年度第 1 回理事会議事録の確認(田中謙事務局長)(資料 02)

田中事務局長より、資料 02 に基づき第 1 回議事録の確認依頼。

3. 報告事項

(1) 事務局報告(一般会務報告)(田中謙事務局長)(資料 03)

- 田中事務局長より、下記の状況が報告された。
- ①学会員の現況は一般会員 221 名、学生会員 22 名の合計 243 名であること。
- ②2020 年度理事会等開催状況についての報告。
- ③寄贈図書が益川会員から 3 冊あったこと。

(2) 各種委員会報告

- ①年報編集委員会(入澤充委員長)(資料 04-1・2・3)
 - 岩崎編集委員より、資料 04 に基づき、予算執行状況、2020 年度(16 号)の印刷費の確定額、2020 年度(16 号)編集作業について報告がなされた。
- ②研究推進委員会(志々田まなみ委員長)(資料 05)
 - 志々田委員長より、資料 05 に基づき 2020 年度の活動報告、来年度の活動計画について報告がなされた。
- ③国際交流委員会(赤尾勝己委員長)(資料 06)

赤尾委員長より、資料 06 に基づき 17 回大会 課題研究 1 において研究発表を行うこと報告がなされた。

④『学習社会研究』第 4 号編集委員会 (吉田尚史委員長) (資料 07-4)

吉田委員長より、資料 07 に基づき『学習社会研究』第 4 号の編集企画案について報告がなされた。投稿等要領について規定字数を 12,000~14,000 字に変更することについて報告がなされた。

(3) その他

特になし。

4. 審議事項

(1)『学習社会研究』編集委員会および第 4 号について (吉田尚史委員長) (資料 07-1・2・3)

吉田委員長より、資料 07 に基づき第 4 号の編集企画案、投稿等要領について規定字数を 12,000~14,000 字に変更することが示され、承認された。

(2) 2019 年度決算・会計監査について (富士原顧問 (前事務局長)・田中謙事務局長) (資料 08-1・2)

富士原顧問・前事務局長より、資料 08 に基づき 2019 年度決算案の修正について示され、承認された。田中事務局長より、2019 年度会計監査について示され、承認された。

(3) 2020 年度活動計画案 (修正) について (田中謙事務局長) (資料 09)

田中事務局長より、資料 09 に基づき 2020 年度活動計画案 (修正) が示され、承認された。

(4) 2020 年度予算案 (修正) について (田中謙事務局長) (資料 10)

田中事務局長より、資料 10 に基づき 2020 年度予算案 (修正) が示され、承認された。

(5) 第 17 回大会の開催準備について (堀井啓幸大会実行委員長・白鳥絢也大会事務局長・田中謙事務局長・佐久間邦友事務局次長) (資料 11)

堀井大会実行委員長・白鳥大会事務局長より、第 17 回大会に向けた準備について報告がなされ、田中事務局長より資料 11 に基づき第 17 回大会がオンライン及び紙面による開催について報告がなされ、承認された。

(6) 学会賞について (岩崎正吾選考委員長) (資料 12-1・2・3・4)

岩崎委員長より、資料 12 に基づき選考手続き・実施スケジュール等について示され、承認された。

(7) 入退会者について (田中謙事務局長) (資料 13)

田中事務局長より、資料 13 に基づき、入会申込者 7 名の入会が承認された。

(8) 第 18 回大会日程・開催校について (資料 14)

田中事務局長より、常葉大学での開催を前提としながらも、2020 年度 9 月 12 日時点では未定とすることが説明され、承認された。

(9) 2020 年度学会総会について (田中謙事務局長) (資料 14)

田中事務局長より、資料 14 に基づき総会につき、2020 年 9 月 19 日 (土) ~2020 年 9 月 28 日 (月) の 10 日間に学会事務局宛にメールにて質疑・意見を受付、意見がない場合は承認として取り扱うことが説明され、承認された。

(10)『日本学習社会学会年報』バックナンバーについて (田中謙事務局長) (資料なし)

田中事務局長より、今後理事会で継続して取り扱いを検討していきたい旨が説明され、承認された。

(11)『学習社会研究』J-stage 登録等学事出版交渉について (田中謙事務局長) (資料なし)

田中事務局長より、J-stage 登録等の状況と学事出版との交渉について、今後理事会で継続して取り扱いを検討していきたい旨が説明され、承認された。

(12) 2020 年度第 3 回理事会開催日程について (新井郁男会長) (資料なし)

新井会長より、次回 2020 年 12 月 12 日 (土) 15:00 から開催したい旨が説明され、承認された。

(13) その他

特になし。

5. その他

田中事務局長より、今年度の会費納入についての依頼がなされた。

【配付資料】

資料 01	2020 年度第 2 回理事会次第
資料 02	2020 年度第 1 回理事会議事録 (案)
資料 03	一般会務報告
資料 04-1	日本学習社会学会年報編集委員会理事会資料
資料 04-2	年報編集委員会年間行事計画
資料 04-3	日本学習社会学会年報第 16 号目次
資料 05	研究推進委員会報告
資料 06	国際交流委員会理事会資料

資料 07-1	『学習社会研究』第4号編集企画案
資料 07-2	『学習社会研究』第4号企画主旨・特集テーマ案
資料 07-3	『学習社会研究』第4号の投稿論文募集のお知らせ
資料 07-4	『学習社会研究』編集規程・投稿等要領
資料 08-1	2019年度決算（案）
資料 08-2	2019年度会計監査報告書
資料 09	2020年度活動計画（修正）
資料 10	2020年度予算案（修正）
資料 11	第17回理事会・大会実行委員会報告
資料 12-1	学会賞選考手続き・実施スケジュール
資料 12-2	学会賞募集要項
資料 12-3	学会賞応募票
資料 12-4	学会賞選考委員
資料 13	入退会者一覧
資料 14	総会資料一覧
回覧資料	入会申込書、退会申込書（割愛）

第 17 回総会報告

日時 2019年9月14日(土) 17:30~18:10

会場 日本大学文理学部 図書館3階 オーバルホール

岩崎正吾委員長より、資料8-1、8-2に基づき、募集要項等の報告がなされた。

(4) その他

1. 会長挨拶

新井会長より、文章で大会実行委員長および実行委員各位に対して感謝の意が示された。

2. 報告事項

(1) 事務局報告(一般会務報告)

田中謙事務局長より、資料1、2に基づき、文章で学会員の現況および第16回総会以降の学会活動状況と寄贈図書について報告がなされた。

(2) 第17回大会実行委員会報告

堀井啓幸大会実行委員長より、資料3に基づき、文章で大会準備への協力を感謝の意が示されるとともに、大会概要が報告された。

(3) 各種委員会報告

①年報編集委員会

入澤充委員長より、資料4-1、4-2、4-3に基づき、文章で年報刊行等の報告がなされた。

②研究推進委員会

志々田まなみ委員長より、資料5に基づき、次年度の課題研究等の報告がなされた。

③国際交流委員会

赤尾勝己委員長より、資料6に基づき、大会での課題研究等の報告がなされた。

④『学習社会研究』第4号編集委員会

吉田尚史委員長より、資料7-1、7-2、7-3に基づき、特集テーマ等の報告がなされた。

⑤学会賞選考委員会

5. 審議事項

(1) 2019年度決算案について(田中謙事務局長)

田中謙事務局長より、資料9に基づき決算案の説明がなされ、原案のとおり承認された。

(2) 2019年度会計監査について(坂内夏子監査・鈴木廣志監査)

坂内夏子監査・鈴木廣志監査より、資料10に基づき会計監査について報告がなされ、原案のとおり承認された。

(3) 2020年度活動計画案について(田中謙事務局長)

田中謙事務局長より、資料11に基づき説明がなされ、原案のとおり承認された。

(4) 2020年度予算案について(田中謙事務局長)

田中謙事務局長より、資料12に基づき説明がなされ、原案のとおり承認された。

(5) 第18回大会開催日程・会場校について(新井郁男会長)

新井郁男会長より、資料13に基づき、第18回大会開催日程・会場校については、2020年9月12日時点では未定とする。今後の社会情勢を鑑み、会場校の開催判断等を参照しながら、理事会において開催方法等を含め審議の上決定を行うこととするとされ、原案のとおり承認された。

6. その他

特になし。

お知らせ

1. 新入会員

2020年4月から12月（理事会時点）までに17名の方々が入会されました。

2. 第18回大会の開催

第18回大会は、開催日時・開催校が2020年12月現在未定です。決まり次第学会webサイトにて改めてお知らせいたします。

3. 会員情報の更新

ご異動やご転居などにより会員情報に変更が生じましたら、お早めに事務局までお知らせください。

4. 寄贈図書（2019年12月～2020年12月受付分）

- (1) 柏木智子会員：柏木智子（2020）『子どもの貧困と「ケアする学校」づくり』明石書店。
- (2) 柏木智子・武井哲郎両会員：柏木智子・武井哲郎編著（2020）『貧困・外国人世帯の子どもへの包括的支援 地域・学校・行政の挑戦』晃洋書房。
- (3) 渡邊洋子会員：ピーター・ジャーヴィス著・渡邊洋子監訳・犬塚典子監訳・P. ジャーヴィス研究会訳（2020）『成人教育・生涯学習ハンドブック』明石出版。
- (4) 玉井康之会員：玉井康之・川前あゆみ・棚澤実著（2020）『学級経営の基盤を創る5つの観点と15の方策』学事出版。
- (5) 益川浩一会員：地域協学センター編（2020）『地域志向学研究』4, 岐阜大学。
- (6) 益川浩一会員：室井みなみ・ぎふ地域学校協働活動センター（2020）『子どもを対象とした学習支援に関する研究—岐阜県各務原市における地域未来塾事業「ららら学習室」に着目して—』ぎふ地域学校協働活動センターモノグラフ地域学校協働活動1。
- (7) 益川浩一会員：寺尾美紅・ぎふ地域学校協働活動センター（2020）『体験活動が子どもの生活に与える影響—岐阜県高山市における野外活動・集団宿泊活動「セカンドスクール」に着目して—』ぎふ地域学校協働活動センターモノグラフ地域学校協働活動2。
- (8) 益川浩一会員：山下紗和・ぎふ地域学校協働活動センター（2020）『子ども・家庭のセーフティネットと

しての子ども食堂—さかほぎつぐみ食堂「ほのぼの」（岐阜県坂祝町）に着目して—』ぎふ地域学校協働活動センターモノグラフ地域学校協働活動3。

(9) 益川浩一会員：地域協学センター編（2020）『地域志向学研究』4, 岐阜大学。

(10) 益川浩一会員：今泉雄大・ぎふ地域学校協働活動センター（2020）『放課後子ども教室に関する研究—岐阜県山県市における放課後子ども教室推進事業『スタディ・ハビット教室』に着目して—』『モノグラフ地域学校協働活動』4。

(11) 益川浩一会員：加藤志織・ぎふ地域学校協働活動センター（2020）『地域における子育て支援事業に関する研究—岐阜県羽島市における『ケンパドリームスクール』に着目して—』『モノグラフ地域学校協働活動』5。

(12) 日本公民館学会：

年報第 17 号の自由投稿論文の募集

年報編集委員会

会員の皆様には、ご健勝にてお過ごしのことと存じます。さて、年報第 17 号の自由研究論文の投稿につきまして、以下の要領で募集しますので奮ってご投稿ください。なお、原稿の提出要領の詳細や編集規程に関しましては、学会のホームページ (<http://learning-society.net/>) をご覧ください。

1. 投稿論文テーマ

論文のテーマは日本学習社会学会の活動の趣旨に沿うものとする。

2. 投稿者資格

- (1) 本学会会員で前年度までの会費を納めている者
- (2) 上記以外のもので編集委員会が特に委嘱または承認した者

3. 投稿論文資格

投稿論文は未発表のものに限る。ただし、口頭発表及びその他の配布資料の場合はこの限りではない。

4. 原稿規格

(1) 原稿の量

- a) 研究論文は図・表・注・引用文献・参考文献等を含めて 16,700 字（400 字詰原稿用紙換算で 41.5 枚、年報の 9 頁分）以内とする。
- b) 研究ノートは図・表・注・引用文献・参考文献等を含めて 13,000 字（400 字詰原稿用紙換算で 32.5 枚、年報の 7 頁分）以内とする。
- c) 実践報告は図・表・注・引用文献・参考文献等を含めて 8,000 字（400 字詰原稿用紙換算で 20 枚、年報の 4.5 頁分）以内とする。
- d) ワープロ原稿の場合は横書きで印字する。原稿用紙の場合は A4 版 400 字詰原稿用紙（横書き）を用いる。いずれの場合も字数制限を厳守すること。ただし、年報における見出し・小見出し等は 2 行取りとする。
- e) 年報編集委員会が特に枚数を指定した原稿は上記を適用しないものとする。

(2) 図・表・注等の規格

- a) 図・表はワープロ原稿の場合には論文中に挿入または貼付し、原稿用紙の場合には原稿中に挿入せず別の用紙に貼付し、その印刷位置・サイズをあらかじめ原稿に表示しておくものとする。
- b) 注・引用文献・参考文献等は原稿末尾に一括して掲げるものとする。
- c) 注の番号形態は「(1) (2) …」とする。

(3) 審査の公正を期すための留意事項

- a) 氏名・所属機関名は原稿には記入せず、別紙（5. 提出原稿・書類の④）に記載する。
- b) 本文および注において「拙稿」「拙著」等の投稿者名が判明するような記述を行わない。

5. 提出原稿・書類

投稿にあたっては以下の原稿及び書類を提出すること。なお、提出された原稿及び書類は原則として返却しない。投稿者は論文原稿のコピーを必ず保存すること。

- ① 原稿 1 部
- ② 和文題目及び約 800 字の和文要旨 1 部
- ③ ②の冒頭に、日本語のキーワード 5 語以内を記入する。
- ④ 下記の事項を記載した別紙 1 部
 - ・執筆者氏名（日本語及び英語表記）
 - ・所属機関名（日本語及び英語表記）
 - ・研究論文、研究ノート、実践報告のいずれかを明示し、その題目（和文及び英文）
 - ・連絡先等（郵便番号、住所、電話・FAX 番号、e-mail アドレス）
- ⑤ ①～④の Word 形式の電子ファイルが入った電子媒体（CD-R、USB メモリー等）
- ⑥ 研究論文・研究ノートの場合、掲載が決定されたならば、直ちに英文題目及び 800 語～1,000 語の英文要旨 3 部を提出する。その際、冒頭に英語のキーワード 5 語以内を記入する。

6. 提出期限及び提出先

(1) 原稿及び書類は **4 月 20 日（当日消印有効）** までに**年報編集委員会事務局宛**に提出するものとする。

(2) ワープロ原稿で提出した者は、掲載決定後速やかに打ち出し原稿と「テキスト形式のデータ（Word 形式）」の入った「電子媒体（CD-ROM、USB 等）」を指定された月日までに年報編集委員会事務局宛に送付すること。遅延した場合は理由のいかんを問わず掲載しない。

日本学習社会学会 年報編集委員会事務局

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町 24-5

日本経済大学（東京渋谷キャンパス）松岡侑介研究室気付

日本学習社会学会年報編集委員会事務局 研究室

年報編集委員会 URL

<http://learning-society.net/nenpou.html>